

第43号

大阪市史跡 龍溪禪師墓所 雲竜山九島院

発行所

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号  
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)



# 二セ有栖川宮騒動

## 肩書きで判断するな！

旧皇族で大正時代に断絶した「有栖川宮」の末裔と偽った詐欺事件は世間を騒がせました。「有栖川識仁(さとひと)」と名の男と、彼を「殿下」と呼んで宮妃を演じる女が結婚披露宴を開いてご祝儀約千二百万円をだまし取っていたとして、四十代の男女が逮捕された事件です。

披露宴には、過去に「有栖川宮」として名刺交換した約二千人に招待状が送られ、俳優の石田純一さんら四百人ちかくが出席、一人平均三万円を包んだといいますが、見ず知らずの間柄でも、相手は「皇族」となれば半信半疑ながら光栄とでも思うのか、一人で三十万円のご祝儀を包む奇特な人もいたそうです。しかし、単純には彼ら出席者を笑えるでしょうか。私たちはややもすると相手の「人間」そのものではなく、名譽とか地位とか肩書きといったものに頭を下げがちです。

「大智度論」という古いインドの書物に次のような話が載っています。カシミールの僧が粗末な衣で訪れたとき、門前で追いつ返された。ところが立派な衣を借りていくと、素晴らしい供養にあずかった。そこでその僧は供養の品を衣服に与えたというのです。

一休禅師の頓智ばなしにも同様の話がありますが、われわれは外見だけで人間を判断していることが多いものです。

これは、他人を見るとしばかりではなく、われわれ自身、自分の地位や肩書の力に頼っていることではないでしょうか。相手は「あなた」に頭を下げているのではなく、あなたのバックに頭を下げているのかもしれない。それが証拠に、退職するなり会社をやめて独立したとたん以前は多く聞かれることです。臨濟宗の祖、臨濟義玄禅師は語録「臨濟録」で、「赤肉団上(しやくにくだんじょう)に一無位の真人(しんにん)あり」



皇族の結婚式に呼ばれるワケがないのに、出席者もバカよ

と、「われわれのこの肉体の上に、世間的な位格(肩書き)を持たない真実の人間がいて、われわれの感覚器官から出たり入ったりしている。それを自覚体験していない者がいれば、しっかりと見るんだぞ・・・」と説教しています。

「本当の自分」(一無位の真人)を磨き高めて、相手を心服させるだけの「器」の人物になることが必要なのです。数年前に「有栖川殿下」は、九条松島にある某寿司屋さんに来店し、同伴した常連客の顔をたてた店主から、「有栖川記念ゴルフコンペ」の賛助金二万円をせしめていったそうです。

岡田阪神タイガース・大阪近鉄バッファローズ日本シリーズ(西大阪線対決)祈願!

